東与賀 higashiyoka

文責　田中泰司
佐賀市立東与賀中学校

笑顔が弾けた 合唱コンクール ＆文化学習発表会

「笑顔歓喜～君を魅せるステージ～」のスローガンのもと開催された今年の文化学習発表会は、それぞれの個性や持ち味が存分に発揮され、大いに笑い楽しみ、そして最後には感動があふれた素敵な素晴らしい一日となりました。アイデア満載の生徒会と先生達によるオープニングから始まり、華やかに幕開けしました。

一年劇「桃太郎裁判」は、元気にのびのびと演じました。昔話をベースに、思い込み解くためには、お互いが分かり合おうとする努力を怠ってはいけないというメッセージを送ってくれました。二年劇「シャンデリア」は、ファンタジーの中にちょっぴり大人の味付けが加わり、思わずクスリと笑う場面が多かったです。自分らしく生きるためには何を選択するべきか、考えさせる話でした。三年劇「不言色（いわぬいろ）の蛍」は、戦時中の知覧と沖縄の出来事を実話に基づき再構成された話を、渾身の演技で再現しました。役者のみならず、照明・音響・背景・大道具小道具等、学年一丸となった素晴らしいステージでした。人間らしく生きられなかった当時の厳しい状況を演じながら、平和の尊さと、二度と戦争を起こしてはいけないという決意を表現してくれました。最上級生らしい、圧巻の演技でした。

展示も普段の学習の成果が存分に発揮され、準備や運営も子どもたちが本当によく頑張りました。

合唱コンクールのステージも素晴らしく、午前中の劇の最中も、合唱を聴いている途中でも感動の涙が流れてくるのを止められませんでした。各学年・クラスも様々な紆余曲折を乗り越えて、つくりあげた合唱だったことでしょう。思いは聞こえないはずの左耳にも届いたように思いました。講評の時は思わず言葉に詰まりましたが、四月から子どもたちを見てきて、その変化や成長の速さに本当に驚かされます。この取組みを通じて自分の殻を破り、互いの新しい一面を発見し、認め合える集団にまた一歩近づいたことでしょう。担任をはじめ生徒教職員がともに本気で、全力で取り組んだからこそ心から楽しめたのでしょう。終わった後の清々しい笑顔が印象的で、これからの東与賀中が互いを認め合い、競い合う居心地の良い場所になると確信しています。本当に素晴らしい一日をありがとう。

失くしたお守りと忘れ物

旅の途中、肌身離さず身に付けていたお守りが、帰国して日常に戻ったとたん、どこかにいって姿を消してしまいました。探し回って交番にも足を運びましたが見つかりませんでした。

随分と落ち込み、親友にそのことを話したらこんなふうに言われました。「大事なものが無くなるのは、何かの災難を引き受けて、お前の身代わりになったんだよ。だから良かったじゃないか」と。親友からの言葉はその後の自分の考え方に強く影響しました。

日常生活でも何か忘れ物をして、取りに戻ることがありますが、「この時間のおかげで事故にあわないように逃れることができた」と思います。何かの見えない力はあまり実感したことはないですが、マイナスをプラスに転じる考え方は自分には合っています。

起こってしまった過去はどうしようもないですが、これからの未来は自分の考え方次第。悔やむより発想を転換し前向きに捉える。三十年以上前に教えてくれた親友に感謝です。皆さんはどう感じますか？

突然の息子の帰省

数年前のことです。かつての同僚と飲んでいた時にラインが届き、何気なく見てみると…東京で働いている三十歳になる息子が帰省していて、今夜家に泊まるという内容でした。びっくりして酔いもさめて自宅まで走って帰りました。七年ぶりに会う息子は良くも悪くも変わらず、相変わらずのマイペースでした。仕事や健康のことなど、直接話をして安心したことも、また新たに心配になったこともありましたが、久しぶりの家族4人の時間は楽しく、そして懐かしくあっという間に過ぎました。佐賀駅まで全員で歩き、見送りましたが、さすがに寂しかったです。

彼の誕生が私を教師に導き、無職時代の二年間一緒にいた思い出が、私の人生を豊かにしてくれています。子どもの成長に向き合って、家族の形を築いていった時間でもありました。

学校での子どもたちをみて、その後ろに大切に育ててこられた保護者の思いをひしひしと感じ取ります。親はやっぱりいつになっても、どんなに子どもが大きくなっても、やはり親で心配は尽きませんし、世話を焼きたくなります。子どもとの関わりを通じて親になれたのだとも思います。

学校での仕事は子育てそのものだと感じます。子どもたちを見て、関わって、そして最後には自分の足で自立できるように育んでいく。その地力を、限られた関わった時間でどうつけるかを常に考えています。自分一人でも自分の未来を力強く切り拓き、人生をたくましく進んでいくことができる、そんな子どもたちを一緒に育てていきましょう。

校長室より

文化学習発表会の初めに、「幸せな人生」を送るためには、何事も「全力でやり切る」ことが大事だと子どもたちに話しました。終わりの講評では、幸せな瞬間、感動した場面を多く持っていると、その時のことを何度も繰り返し思い出し、幸せな瞬間を再び感じることができると話しました。子どもたちが表現してくれた数々の場面は、私の人生においての「幸せ」を感じた場面です。東与賀中学校の校長で本当に良かった、そう感じさせる子どもたちとの出会いに心から感謝しています。